



RemoteXsはインド政府からの資金援助を得たインキュベーション会社、Eclat Engineeringという会社のサービスです。研究室から独立し、コンテンツとユーザを如何に管理し、さらに利用に関しての利用統計の情報とともに提供するかということに焦点をあてたソリューション会社として設立されました。この主要な技術を利用することで、図書館全体でのサービスから、ユーザグループにとって最適な情報源環境を提供することができます。

主要技術1：情報源ポータル付きのクラウド・リモートアクセス

学生、研究者、科学者が、施設で契約している情報資源をいつでもどこでも、有効に利用できるようにするためのリモート・アクセス・ソリューションです。各デバイスからはネットワークを介して、外部のクラウドのポータルサービスを経由して、外部の契約サービスへナビゲートします。既存の認証システムや部局の図書館ページ等とも統合可能な機関向けのリモートアクセスソリューションです。

主要技術2：利用統計情報の収集

各リモートのセッションやリソースを監視し、従来のEZ ProxyやVPNさらに、統合認証で提供できなかった利用統計ログをわかりやすく管理者に提供します。リソース毎、ユーザの属性によるグループを作成し、それらのグループ毎に利用統計を収集することができます。このサービスを利用することで、管理者は誰がどのコンテンツをどれだけ利用しているのかを把握し、これらの情報により、今後のコンテンツ増強及び削減を考慮することができます。

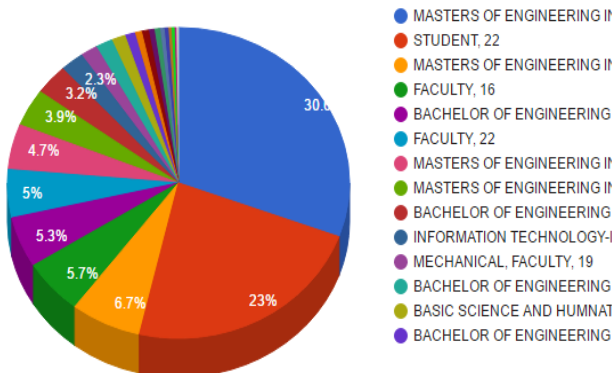
主要技術3：コンテンツ管理

RemoteXsは情報資源をクラウドのポータルサイトで提供し、ユーザの所属カテゴリ毎に利用コンテンツを管理することができます。この技術により、施設全体での購読はなくても、特定の所属部署だけのコンテンツを提供することができます。最終的には、必要なコンテンツを必要な部署に提供するソリューションを提供することができます。

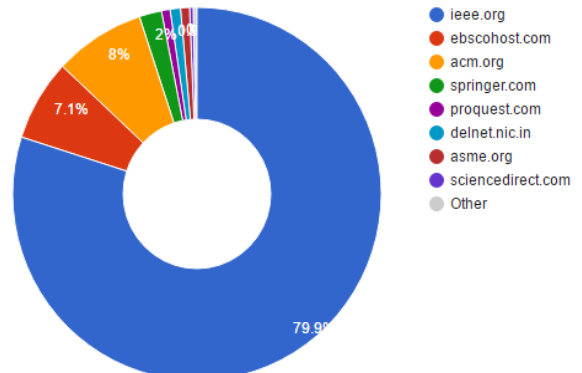
管理者の利用統計表示

- コンテンツごとの利用状況
- 部局および部局の所属員ごとの利用状況
- コンテンツおよび部局の組み合わせでの利用状況

Categorywise Total PDF Downloads



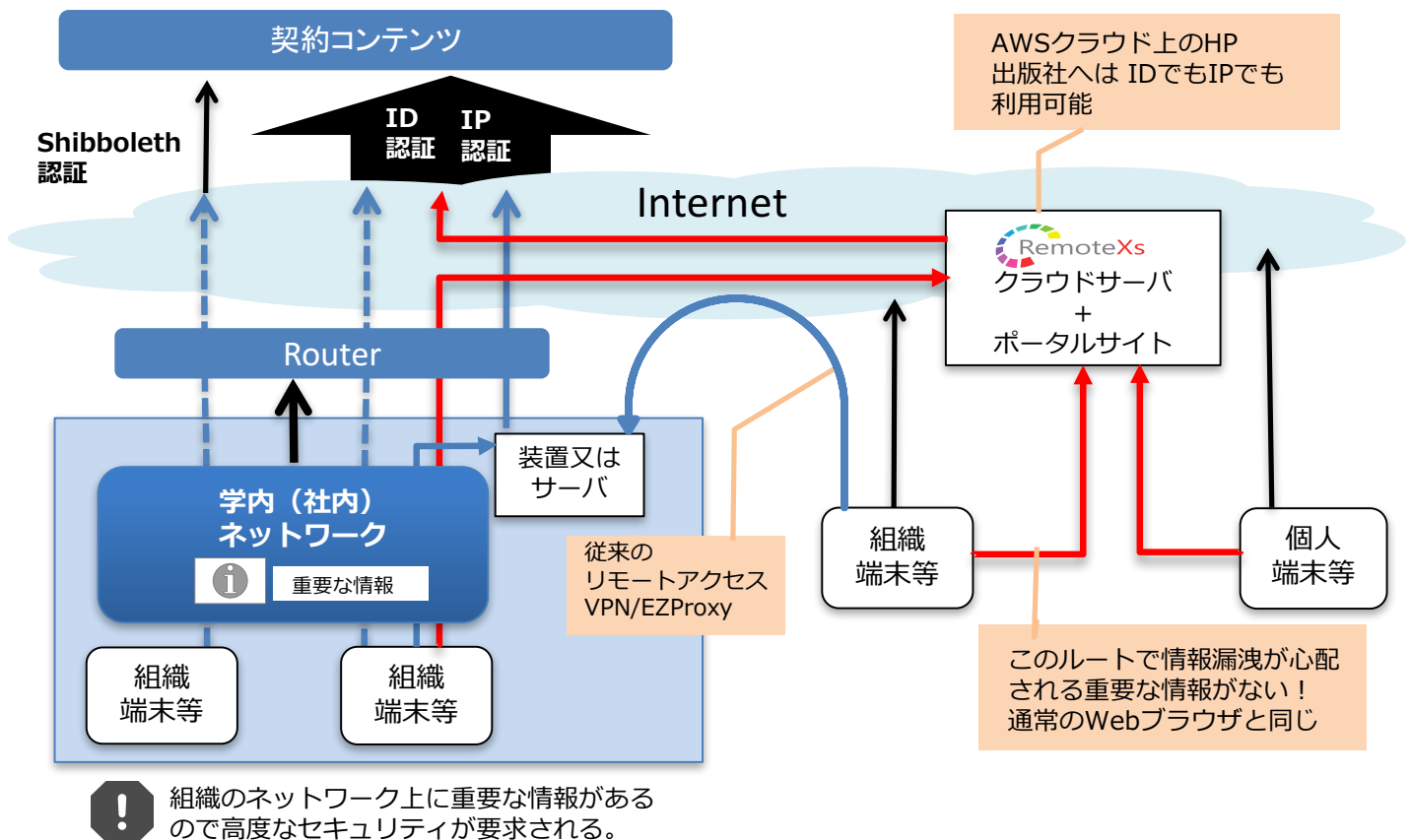
Resourcewise Total Data: Downloads+Browsing (in MB)



- 管理者ダッシュボード**
 1つのスクリーンで設定、利用状況が一目で提供できます。
- ITインフラ不要/マルチデバイスサポート**
 サーバ等不要で、AmazonAWSのクラウド型のサービスで、マルチデバイスをサポートし、ユーザのスマホにも24時間365日の学内外のリモート・アクセスを提供することができます。
- 1ログインで利用可能なコンテンツにアクセス**
 24時間365日、どこにいても、1つのユーザログインIDがあれば、学生でも、先生でも、研究者でも、管理者が部局ごとに設定した契約コンテンツにアクセスできます。
- ユーザサービスのためのツール**
 電子リソースのコンテンツの利用に関するヘルプ、トレーニングビデオ、論文、イベント、ウェビナー等々の告知等をポータルサイトを介して利用できます。

- 統合電子メールサービス**
 利用開始eMail, パスワードのリセット等含めて、全てのユーザへの電子メールがテンプレートとして定型化されており、管理者がすべてのeMailを管理することができます。eMailの内容は、日本語でも他の言語でもテンプレートを変更することにより提供できます。
- 提供するコンテンツ管理**
 ユーザのカテゴリ毎の情報源グループやユーザカテゴリ毎にアクセス可能な情報源を変更できます。
- セキュリティと信頼性**
 エンドユーザ毎のデータダウンロードの制限、ロボットダウンロード防止、システムの濫用の自動チェック機能等
- 意思の決定のための広範な利用レポートツール**
 RemoteXsによって作成されるレポートは、図書館の購読や予算を最適化するのに役立ちます。

RemoteXsシステム構成図



お問合せ先

